

○看護医療系&保育教育系を目指す人のための講座○

石川塾の国語力を身につける講座のメソッドを活かし、看護医療系・保育教育系を目指す塾生のために選んだ図書の要旨要約で、現代文・小論文の対策をします。医療問題、少子高齢化などの社会問題、教育問題、発生学、発達心理学、脳科学、言葉の習得過程など専門分野の中でも広く深い知識を身につけることができます。

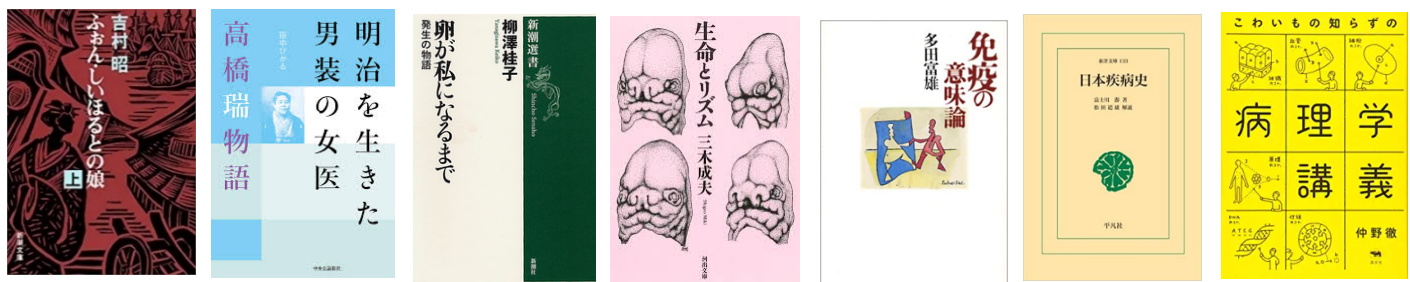
■看護医療系&保育教育系共通課題図書

- 『コウノドリ』(鈴ノ木ユウ/講談社) ●『胎児の世界』(三木茂夫/中公新書) ●『胎児のはなし』(増崎英明・最相葉月/ミシマ社) ●『目の誕生』(アンドリュー・パーカー/草思社) ●『思考する豚』(ライアル・ワトソン/木楽舎) ●『宇宙からの帰還』(立花 隆/中公文庫) ●『選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』(河合香織/文藝春秋) ●『せいめいのはなし〜生命の神秘をめぐる〜』(福岡伸一/新潮社) ●『生命の意味論』(多田富雄/新潮社) ●『ウイルスの意味論——生命の定義を超えた存在』(山内一也 /みすず書房) ●『宿命の戦記—笹川陽平、ハンセン病制圧の記録』(高山文彦/小学館) ●『銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎 上・下』(ジャレド・ダイヤモンド/草思社文庫)



■看護医療系課題図書

- 『ふおん・しいほととの娘(上下)』(吉村昭/新潮文庫) ●『明治を生きた男装の女医〜高橋瑞物語〜』(田中ひかる/中央公論新社) ●『卵が私になるまで—発生の物語—』(柳沢桂子/新潮選書) ●『生命とリズム』(三木成夫/河出文庫) ●『免疫の意味論』(多田富雄/青土社) ●『日本疾病史』(富士川游/東洋文庫) ●『こわいもの知らずの病理学講義』(仲野徹/晶文社)



■保育教育系課題図書

- 『フランスはどう少子化を克服したか』(高崎順子/新潮新書) ●『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』(針生悦子/中公新書ラクレ) ●『パパは脳研究者—子どもを育てる脳科学』(池谷裕二/クレヨンハウス) ●『お母さんの「敏感期」 モンテッソーリ教育は子を育てる、親を育てる』(相良敦子/文春文庫) ●『AIに負けない子どもを育てる』(新井紀子/東洋経済新報社) ●『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(ブレイディみかこ/新潮社) ●『新編 教室をいきいきと1・2』(大村はま/ちくま学芸文庫) ●『増補 日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』(水村美苗/ちくま文庫)

